みんなの広場

はっらつ ところ 野老っ子

白球にかける「夢」

今村　友美さん
（弥生町在住）

周りの人をも元気にさせる中学生を見つけました！部員からの信頼が厚く、チームを引っ張る野球部キャプテンの今村さんです。練習を覗いてみると、チームで一番声が出ている元気印の女の子です。

初めてボールを握ったのは小学1年生のとき。「楽しかった」と振り返る言葉が、今も野球をやり続けている証です。

お父さんは少年野球のコーチで、兄弟もそれぞれ高校・中学校の野球部所属という野球一家。家では、テレビでのナイター観戦や野球談議をします。そしてお母さんも、今村さんの素振りを見てアドバイスをするとか。

「バッティングが好き」な今村さんはランナーに出ることを心がけている3番打者で、ファーストを守っています。また、「皆に守備で助けてもらっている」と謙虚さを持つ、切れ味鋭いスライダーが武器のピッチャーでもあります。

毎日の練習では辛いときもあるそうです。「自分に負けたくないから頑張るんです」の言葉には、しっかり者という印象があります。それは、服装チェックや朝のあいさつ運動をする生活委員長を務めていることからもうかがえます。

来年、高校生になる今村さんは、野球をやるかソフトボールをやるかで悩んでいます。その先には、ソフトボールでのオリンピック出場を、視野に入れているからです。4年後の北京大会を狙っています。

そんな今村さんに「プロ野球チームへの入団が可能なら？」と聞いてみると、「必ず入団します」という力強い言葉が。自分の好きな野球をやり続ける環境を、限りなく求めている気持ちが伝わってきます。そんな野球の魅力を「チームが一丸となって支え合うことができる」と語ってくれました。

休日は、野球部の男の子たちとプロ野球を観に、球場へ出かけることもしばしば。あこがれの選手の話をするときの笑顔がすてきでした。また、プロ選手の野球教室に参加し、感動したとか。今村さんにも、子どもたちに夢を与える選手になってほしいと思います。

初めてボールを握ったときの楽しさと大会での初ヒットのうれしさを、心に持ち続けたままで…。

▲日本初公開のパラ。感じます。「国際パラ5月14　会場では、フランスの風をとガーデニングショウ」。日(金)～19日(水)／西武ドーム

TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 51

宮本町・三ヶ島葭子の歌碑

神明社・三ヶ島葭子歌碑

宮本町の神明社境内には、歌人三ヶ島葭子（1886～1927）の歌碑が建っています。この碑は、昭和33年に有志の人たちにより建てられたものです。碑面には葭子が詠んだ一首が刻まれています。

しみじみと
障子うすぐらきまどのそと
音たてて両の
ふりいでにけり

（歌集の原文は「しみじみと障子うす暗き窓の外音たてて雨の降りいでにけり」）

生活の中の情景を詠った歌のように思えますが、実は病苦と孤独に耐えながら詠まれた歌なのです。

葭子は、明治19年に三ヶ島村の神官の家系に生まれました。父は小学校長を務め、母は葭子が6歳のときに亡くなりました。異母弟に名俳優として知られる左卜全がいることは有名です。

葭子は、11歳から短歌を作り、古典にも親しむ文学少女でしたが、埼玉県女子師範学校学中に肺を患い、退学を余儀なくされました。その後彼女は、代用教員をしながら短歌を作り、23歳のとき『女子文壇』に投書した作品が入選したのをきっかけに、与謝野晶子に師事して次々と歌を発表しました。

大正3年、28歳のとき所沢の倉片氏と結婚し、長女を出産しました。東京で暮らしていましたが、その後肺の病のため、長女を夫の実家に預けることになります。そうした中、親友であった歌人原阿佐緒に感化され、当時歌壇の主流をなしていたアララギ派に加わり、島木赤彦の指導を受けました。

しかし、大正13年に脳溢血で倒れて病床の身となりました。このころの葭子は、夫との別居、病苦との闘いの中で、歌を作ることが生きる支えであったといいます。

葭子は昭和2年、40歳でこの世を去ります。生涯で6千首もの短歌を作りました。特に後半に作られた歌は、歌人斎藤茂吉に「真実な歌」と高く評価されました。

この歌碑の書は葭子の長女、故倉片みなみさん（平成13年逝去）によるもので、伸びやかな筆遣いが歌の趣を伝えています。

なお、葭子の歌碑は三ヶ島中氷川神社にもあり、三ヶ島公民館には三ヶ島葭子資料室がありません。

三ヶ島葭子資料室（三ヶ島公民館内／☎2948-1204／月曜日、祝休日、年末年始を除く午前8時30分～午後5時開館）

街かど ズームイン

▲「え、もう夏なの？」と思わせるような暑さ。人もカモも、水が恋しい5月のひとときと。
5月31日(月)／所沢航空記念公園

▶皆さんからの「街かどズームイン」採用者には事前に連絡します▶「誰ではテーマにそった投稿を募集▶はが以内で▶文章は添削あり▶掲載者には▶次回のテーマは「まつり」▶さあ、う季節です▶町内会等、皆さんの周りなまつりが…▶誰もがわくわくする、に関する話をお寄せください▶締め切㈬必着▶住所・氏名・年齢・電話番号先：〒359-8501・並木1－1－1所沢市課「みんなの広場」係

情報を募集▶もエッセイ」きに300字記念品を進呈まつりが似合でもにぎやかそんなまつりは7月7日を明記▶送り役所秘書広報

▲「ゲート通過！」の声が、参加者の気持ちを高揚させます。「高齢者ゲートボール大会」。
6月3日㈭／所沢航空記念公園運動場

ふれあい館 少々イロイロ 『エコロ』不用品ガイド

●**譲ります**　▷小型冷蔵庫▷自転車（24インチ）▷A型ベビーカー▷スチームアイロン

●**求めます**　▷ワープロ▷冷蔵庫▷マッサージ機▷小型のタンス▷自転車（26インチ、子ども用の18インチ）▷学習机▷卓上ミシン▷電子ピアノ

◎登録翌月の初旬に内容を館内に展示しています。このほかにも多数登録されています。ぜひご利用ください。

受付方法　リサイクルふれあい館へお問い合わせください。

休館日　月曜日、祝休日（7月20日㈫は休館します）

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX2994-1118）

誰でもエッセイ

テーマ　時間

時間よありがとう

こぶし町・髙井　壽子

小学1年生のひ孫が、リレーの選手に選ばれたとの電話。家族総出の運動会で、朝から1日がかりの応援だった。

小粒ながらスポーツ大好きで、サッカーもまるで選手のつもりのひ孫。そんなひ孫に親馬鹿、ババ馬鹿となって、長い時間見守りながら大笑いの1日。リレーでは1着になり、「バンザイ!!」。3歳になる男も負けじと大はしゃぎ。

時間があっという間に過ぎ、1日が長かったのか、短かったのか。「時間は金なり」の言葉を思い出しました。

くし振りに、時間というものを見つめ直したことに感謝。若やいだ1日でした。「時間よありがとう」。

時間よ止まれ！

並木・竹田　亮一郎

新聞の投書欄に、私と同じシニア世代の男性が、「時よ止まれが今の心境」と書いていた。

七十路に足を踏み入れた私の思いも同じ。何しろ、50年間のサラリーマン生活の中で、やり残したことが多々ある。寿命とはいえ、残された時間はあとわずか。思い残すことなく、この世におさらばしたいのが本音。

そこで定年退職後に、水墨画、創作、詩作、随筆、自分史、新聞への投書にチャレンジ。一方、民謡、カラオケ、童謡と歌の世界にもかかわった。そして市政モニターへの参加なども。

椎間板ヘルニアでスポーツとは無縁ではあるが、これらのことにまだ挑戦を続けたい。そこで、「時間よ止まれ！」が目下の心境である。

1年前と1年後

下安松・辰田　まゆみ

新緑が生い茂り、眩しい陽射しの中、春の小運動会が娘の通う幼稚園で行われました。我が子もそうですが、みんな元気いっぱいでほほえましいです。

中でも年少の園児は、覚えたてのダンスを小さな体いっぱいに動かして頑張っていました。1年前の娘の姿と重ね、改めて1年という時間の大きさを感じます。

また、年長の園児は頼もしく目に映ります。娘が年長になったとき、あのように頼もしく成長しているのでしょうか？心の中をそんな疑問がよぎります。少しずつ成長してほしいと願います。

1日1日の時間、親も子も一生懸命になる幼児期ですが、ついつい喧嘩としてしまうときもあります。その中でも、お互いに糧となるものを見つけたいものと思ってやみませんが、現実には難しいものです。それでもそんな中で、私たちは成長させられていくのでしょう。

幸せなひとこと

上安松・西村　ヒサ子

もう約15年も前のことです。義姉が上京したとき、母、私との3人で家の近くを散歩していると、母がうれしそうに「今日のお昼は私がごちそうするからね」と言って、うどん屋さんへ入りました。

お店を出て、またおしゃべりを楽しみながらの帰り道。「何と幸せなひとときだろうね。今のこの時間が止まるといいのにね」と、母がしみじみ言いました。

義姉と会ったびにその話がでます。

今は、そのうどん屋さんも閉店。母も他界し、時の流れと変化を感じますが、3人で歩いた散歩道と母の言葉は、大切な宝物の1つです。

時間は、人それぞれの心に、温かさと優しさと厳しさを休みなく積み重ね、過ぎて行くものだとつくづく思います。

闘う時間

北岩岡・天宮　樹里

今年の冬、私は思いがけぬ大病をした。本来の持病に加え、自律神経を患ったのだ。このため、体のあちらこちらが氷のように冷たく感じた。さらに、複合感染症を併発し、病と闘う時間はまるで地獄さながらであった。

時計の針は、渋滞に巻き込まれた車のようになかなか進まない。あと何時間我慢したら健康な体にたどり着くのか。ゴールが見えない毎日に、時計を恨めしくにらんだ。

闘いが以前より緩和した今、ペンを執れることに感謝し、自分と同じ闘病を余儀なくされている方々にも、早く安らぎの時間が訪れることを願う。

とことこ 町内会めぐり

【小手指地区・第3区町内会】
～犯罪のない地域社会を願って～

小手指地区には71の町内会があります。第3区町内会は、西武池袋線西所沢駅の西に位置し、360世帯の会員で構成されています。現在では、マンション・アパートが増え、新しく住民になった人々も多くいます。

近隣には、市指定文化財の六所神社や真言宗豊山派の名刹普門院があり、「春の桜」「秋の紅葉」が訪れる人たちの心を和ませてくれます。また、児童遊園地が2か所あり、子どもたちが喜んで遊んでいる姿は、ほほえましい限りです。

当町内会では、地域の連帯と相互扶助の精神をもって、「地域の安全は地域で守る」を合言葉に、自主防犯対策活動の充実に向け、積極的に取り組んでいます。

「地域の目　皆んなの目が犯罪防ぐ　防犯パトロール」。これは、当町内会で作成した防犯標語です。

地域のみんなで防犯活動

このパトロールは、日常生活においての「NAGARA　PATROL」です。町内会の役員みんなが防犯の帽子、腕章、ブルゾン姿で、町内会の用事をしながら・ウォーキングをしながら・犬の散歩をしながら・楽しみながらパトロールするものです。

こうした地域の取り組みは、犯罪の抑止力になると考え、これからも町内会のみんなで防犯意識の高揚に努め、犯罪のない安全・安心な地域社会を願って努力していきたいと思います。

――次回のテーマは「まつり」です――

私の心の中には…

日吉町・吉野　富子

息子が38歳で逝って2年半が経ちました。「悲しさや寂しさは時間が経つことでしか解決できない」という年月でした。

重度の障害を持つ息子で、すべての学校・施設への送り迎えが必要でした。どこにいても、迎えの時間には必ず戻るという腕時計を放すことのできない30数年間でした。1日のうち、時間が大切でした。

今は、時間に追われることがない静かな1日を過ごしていますが、私の心の中には、息子を思い出す時間が消えることがありません。きっと、私が生きている限り、続いていく時間だと思います。